

「2024年度インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部4年 谷口 誠斗

私は今回のインドネシア大学スプリングプログラムを通して実際に異文化に触れたことで、国外海外留学への志が高まった。今回のプログラムに参加する以前から、大学院を卒業し就職してしばらくたった後海外の公共政策大学院へ留学しまちづくりについて学ぶことを望んでいたが、海外で生活した経験がなく達成される見込みの低い目標だった。だが、今回のプログラムで短期間ではあるが実際に海外で学ぶ経験をしたことで、海外留学に対する抵抗感が弱まり外国語でコミュニケーションをとることに対する恐怖も薄まった。将来、海外の学校で修士を取りたいと強く思うようになった。

インドネシアに滞在中、私はインドネシア大学付近の町並みを歩き商業施設を訪れることで、現地の住民の生活風景をみた。その際に利用した交通手段はタクシーだった。インドネシアでは、公共交通機関は存在しているが日本ほど普及してはおらず、また歩道がとても狭く車道の交通量も多く徒歩で街中へ移動することも難しいため、タクシーが最も便利な交通手段である。現地の住民がタクシーを利用する姿を頻繁にみたが、これはインドネシアではタクシーが普及していることの表れだろう。しかしタクシーに乗った際、交通渋滞に巻き込まれ徒歩30分の距離が1時間以上かかったこともあったため、インドネシアではタクシーは電車などの公共交通機関の代わりとなっているが、公共交通機関のように定刻に目的地に到着する可能性は低く、タクシーの普及がジャカルタ近辺で深刻化している渋滞問題をさらに悪化させているように感じた。

プログラムでは、私はインドネシア大学の学生とともに最終日共同発表を行った。共同発表にむけて現地の学生とともに共同発表の議題（公共交通機関）について話し合い、ペアとなったインドネシア大学の学生の協力の下ジャカルタとその近辺に住んでいる人々に google form でアンケートを行った。アンケートでは、公共交通機関に対する現地住民の生の意見を知ることができた。例えば、自宅から最寄りの駅・バス停まで数 km あり自家用車を利用する方が便利であるという意見などが多くみられた。このように共同発表を通して私は、ジャカルタ近辺に住んでいる多くの人々の生活について知ることができた。

進路への影響についてだが、私は来年度より京都大学公共政策大学院に進学予定であり、大学院では都市計画・まちづくりについて学ぶ予定だ。ジャカルタはインドネシア有数の大都市であり今もなお急激に成長しているが渋滞など様々な都市問題が深刻化している。以前までは大学院卒業後日本の都市計画・まちづくりに携わるような人材になることを目指していたが、今回のプログラムで発展途上国の都市の現状を目の当たりにしたことで、途上国の都市開発に関わることも魅力的な選択肢であると考えようになった。